

# ゴミステーションをきれいに

私たちの生活に欠かすことのできない  
 ごみステーション。誰もが気持ちよく使  
 うために、考えてみませんか。

## 手作り板の輪で囲む

家庭から出されるごみを収集するまでの一時的な置き場として、区内に四千カ所以上も設置されているごみステーション。生ごみが出されている日は、それを狙うカラスが集まってくることもしばしば。カラスに食い荒らされた後、周辺にはごみが散乱し、街が汚れます。その様子を、頭を悩ます人たちが多いのではないのでしょうか。

そのような悩みを解決し、ごみステーションを清潔に保っているのは鉄西第十三町内会の皆さんです。同町内会衛生部長の鎌野よしさんは「公園に隣接するごみステーションは特にごみが飛び散らかり、困っていたんです。それで昨年秋に、北清掃事務所に相談したところ、カラスよけサークルを紹介されました」と話します。サークルの見本を借りて、ごみステ



▲この街に住んで半世紀になるという鎌野さんご夫妻。よしさん(右)は、ごみ分別の研修や清掃工場見学など、街をきれいにする活動に取り組んでいます

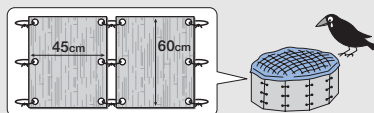
ーションを囲んでみると、ごみが散乱せず、見違えるほどの効果があったそうです。そこで、鎌野さんのご主人で同町内会会長の正一さんが、町内の各班で使ってもらおうと、サークルを十個作成しました。「ベニヤ板を八枚つなぎ合わせた見本と同じ大きさのものと、板を小ぶりにして軽量化したものと、の二種類を作って、班の状況に合わせて分配しました。使用後は毎回畳んでネットの下などに置いておくので、板と板を結ぶひもの長さに余裕を持たせることがコツです」と正一さん。ごみステーションを管理してくださる方たちからも使いやすいと好評です。



▲積雪の多いこの日は、スコップを手にごみステーションを見回りました

朝一番にごみ袋を出す人が自発的にサークルを設置し、次々と来る一人ひとりが、輪の中にごみ袋を置いて、きちんとネットをかぶせるので、見た目もすっきりとし、いつのまにかカラスの姿も見かけなくなつたとのこと。地域の人たちが協力して続けているこの取り組み。皆さんのごみステーションでも試してみませんか。

## ★カラスよけサークルの作り方★



- ①ベニヤ板の両側上中下にて穴を開ける
- ②板と板をひもで結ぶ。畳む時のために板と板との間隔を約1cm取るようにひもの長さを調整する。
- ③全部の板を結ぶとサークル(輪)になる

※ベニヤ板の寸法や枚数は、各ごみステーションの事情に合わせて調整してください。

## みんなできよう

ごみステーションの設置や移設については、町内会などを中心、地域の皆さんが話し合つて決めています。その結果を受けて、北清掃事務所では、道路交通法や収集作業上の問題がないことを確認し、ごみ収集を開始します。ごみステーションを効率的に利用するため、隣り合う町内会同士で相互に最寄りのステーションを使う話し合いをし、利便を図っている所もあるそうです。みんなですう場所なので、より快適に、気持ちよく利用する方法を、地域の皆さんで考えてみてはいかがでしょうか。